

# 和福語

武家部上立

和書門			
類	號	二七三八二	
函	九〇		
架	三		
冊	一〇		

內閣文庫			
和書	類	二七三八二	
函	九〇		
架	七		
冊	一〇		

內閣文庫	
番號	和 27382
冊數	10 ( 5 )
函號	190 109



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TMI: Kodak





倭論語卷第五目錄

武家部上

道臣命

大夏命

坂上田磨

藤利仁

平貞盛

平忠盛

源滿仲

源賴光



五十挾芥夏命

武内宿祢

坂上田村磨

平良壑

藤秀卿

源經基

平惟茂

源成賴

明治十二年



源義家

源順

源信孝

平重盛

平教經

源秀義

源義仲

藤朝綱

藤保昌

源義平

源義光

源綱

藤清衡

平知盛

源為義

源義朝

源賴政

藤實盛

源為朝

藤忠澄

源賴朝

藤正清

藤實基

源定綱

藤秀能

源仲經

源光保

源遠光

源七若光

源希義

藤義通

源義經

源一萬九

藤憲清

源行國

源光基

源昌義

源惟義

源實朝

源範賴



阿野全成

平時政

平義盛

平常胤

平重忠

平致經

純奉光

源信綱

高階惟長

藤忠衡

藤光秀

藤朝政

藤祐成

源盛綱

平泰時

藤知家

藤範宗

源義六

源重國

藤義宗

源義氏

源義清

源義康



倭論語卷第五

武家部上

道臣命曰。の免乃るをよはゆか。くむはゆか。くよ  
 びく。うけつを。四乃時を。人乃いけ。米かき  
 ら。米。さく。人を。海。ゆ。之。あ免乃る。ゆ。米。さ  
 け。を。ゆ。時。ハ。五乃。今。う。米。ゆ。よ。を。あ。一。飯。乃。心  
 か。さ。時。を。母。の。を。法。く。と。く。や。う。け。あ。を。く。や。く。い  
 米。さ。ゆ。り。ハ。さ。さ。さ。う。あ。一。け。さ。う。一。か。た。れ。は。く  
 人。氏。志。ゆ。く。人。氏。志。さ。ハ。く。力。を。志。か。さ。さ。力。を  
 志。さ。ハ。不。義。あ。一。不。義。を。事。れ。ん。恥。か。一。恥。か。け。

和言言卷五

三



是は是ぞよりか健弱なり

神武天皇御宇東國征伐之時大將也

是日本武

家之權輿也

疾五十挾并疾命曰人運を起す也

を才一乃く分先なり運乃あるの才ハ人ぬるの

を才て運成ちるを才を運とく志成也は云

なりはしんはとをく乃後なるびぬる成運と

をよりはとをくしてはるゆかをや天乃は

傳曰吉備津彦母和國香姬崇神天皇御宇

遣將軍於四道此人為西國將軍備中國吉

備津宮是也欲治鎮西者必祈此神云孝

靈天皇才二子

太疾命曰我々をばはひまこくわりのぞ先は

るかん時我乃もの心なむか

くはをばはひまこくわりのぞ先は

孝元天皇才一皇子也崇神天皇御宇為小

國大將軍時聞武垣安彦等殺而自途中

兵引敵討之武垣安彦等打殺

武内宿禰曰我が自然乃法あり是武







おとしいちりすくやういそ利よあして我のふし  
しきふ取をよして是をうけ下おん又歌に  
あふぐりし

折田九男也鎮主府將軍延曆大同年中討取

鈴下之蝦夷弘仁帝御宇誅仲成甚有功

友利仁朝臣曰允詔命をうり名て惣運乃やうと

かゝるをよとてんものき天下乃まかこ成を

みろくしを下乃海かこよみえとあものか天

下乃身みことえさり事あしを下乃心

らりみろくしをよとてぬ事あし

鎮主將軍時長男也延在十一年任上野

二上總守鎮主將軍武藏守左近將監此入神

通而飛海路也武畧達者也母越前守秦豊

國女

平良望朝臣曰人吾以ておと事あく時入り

るをりすりし惣やうりてあつとあうあな

と事あく口ひあくおをもるもの成を

天是よはく成あうへ給ふなわじりなす

乃ものなむりあうひ助をらましく是を

さし







乃乃あはれ

平正盛朝臣男秋部心從四位上昇殿奇人也仁

平三年正月十五日卒五十八歳法名真海

源經基王曰天友時日ハ法ヨリ人是存ヨリ也

そのふ乃我よ及てハ此奉あふくも是天友

時日冬をなす我ハ愛なり定理あり只

時乃氣然さけハ愛ハ先立神ハ先立歌乃心

をさやるふ乃外史よ要あり

清和天皇孫也天福五年六月十五日始而

賜源姓鎮主將軍正四位上号六孫王母源

右大臣能有公女天徳五年十一月四日卒四十

五歳此人為八尺龍住西八条池此地所今為律

院

源滿仲朝臣曰大御中なるもの恥知乃しのみあり

一は智徳あり二よハ信心なり三よ仁公なり四ハ

勇あり五よまじひりくあり六ハ誠心あり七ハ

月あり

六孫王男也延喜十二年四月十日生鎮主府將軍左

馬以正四位下昇殿母橘繁吉女寛和二年八月

十五日生家法名滿慶長徳三年八月廿七日卒











号八幡太郎鎮主府將軍左衛門佐左馬權次

正四位下昇殿母上總介平直亦女長治二年七月

四日出家同年八月十八日卒六十七歲

源義光朝臣曰おの要とすか怨んんる事代也

おのてりておどらん人是は子落し入るを止おせ

ま下一我ひして十度小八九度膝ぬりおの中乃おあり

山代さると堀ぬりおに氣代ま一様もりハ下お

なり。此三乃乃介用る事あり也

源頼義朝臣三男於江州新羅大明神宝前

元服依之号新羅三郎歿部兼從五位上右

兵兼射甲斐守大治六年七月九日卒七月廿日馬達者

贈從四位下

源順曰公代虛室乃とく一志を挫さうり物

まどりるよ正代とてすまハ文乃武乃ふるよと志

業おもひひ乃とくならん事。あるとハふるひこり

るゆりがふりし

嵯峨天皇五世左馬次源攀朝臣男也文章博

士能登守從五位下奇人永觀元年卒七十二

源綱曰い川ちるおいるとと益あるハい河日わの流

なり。海ことおとと益がととハい流をりなり人







まよとくも吾神明乃由公姑外より生じあはく  
人乃由りちりて成川あんらとハキとハあま  
心をおもふ

太政大臣平清盛云男号小松殿仁義乃徳之人  
也内大臣正二位母二位尼平時信女法若浄蓮活

兼三年七月廿八日出家同年八月初薨

平知盛御曰人乃如く成川中よりあまあて人  
を言乃ていゆめをさくせく云ものハくあは表  
表あつものなり夫事乃淨定人より入るるは心  
乃との此あつ乃世よりは多きくそは成川に成り

一系心あく成川中よりあまあて人あまあて人  
りあつ成川中よりあまあて人あまあて人

入道清盛云三男也征夷大將軍權中納言從三

位母同重盛云

平教経曰成川中よりあまあて人あまあて人  
そり三軍令にまことよく成川中よりあまあて人  
成川中よりあまあて人あまあて人あまあて人  
りあつあまあて人あまあて人あまあて人

門脇大納言從二位教盛卿四男也從五位上  
守精兵日本無双々号六条右衛門佐







淡路守忠清女友信頼心逆乱日風之矢軍利  
落東国方於尾張國野原庄為長田被害贈

正二位

源義仲曰吾代進め歌を遊落と乃耐おとひの  
外は落去也と味方其のまゝ案入事へうあはれま  
う成ゆのまゝのなわあはれいんるん中てあまり案入事  
おそえとよりくは三日成とてよりとる

六条判官為義二男常乃先生義賢二男也号  
木曾冠者征夷大將軍伊与守左馬从四位  
下童右助王丸母遊女元曆元正月廿一日於江

別粟津原被誅或号朝日將軍昇殿

源頼政曰おと成く民をあひせさる人をもあま  
の事定をさうして腹乃を先よあまの物うま  
又曰吾妻清乃乃乃少依し世ぬお乃といひあて実  
乃なる物乃より夫和方天地可物和合乃乃あま  
んあまそや人乃あまんはさけあ

下野守源仲政男也号源三位异人也母藤原友  
実女治承三年十一月廿八日出家法名頼秀政貞

蓮同四年五月廿三日於守治自害七十六歳

茲朝綱曰双親ひあやまのそと也我乃即父母乃







致忠朝臣男也正四位下武界長母元明親王女

長元九年九月十五日卒七十九歳

源為朝曰人乃ううぬうしる事誠公のハウあり

と大臆病りのことなり。あふ人夫去乃外あ

りのもかき乃ううりりハ生家之必不学破戒

乃もの高人ハ来乃なりことめなり

六条判官為義入道八男号鎮西八郎大力精

兵日本無双又一乱之後配伊豆大嶋嘉應二

年四月於被嶋被誅也

源義平曰武乃乃ハ可よりやうもさうう

やうしむの馬を以て欲は公乃うらひを

をよりやうもさうもさうのハ流のさ海より

用イよハあささうハ何乃用イもさう

福武中ハハハハ

源義朝長男号惠源太左衛門尉平治大乱

之後住江州石山寺終被虜同二年正月廿日於

六条川原被誅惡念忽現雷神也

藤忠澄曰天地乃吉凶をうくみものハハハ

人を結あうも乃ハ我ハ独勝我より勝りのハハ

人子とらん人をせそハ侍りのハ君ハ忠有親



孝ありて友より後とる物なり

藤為憲七代世部權守奉綱長男也平治合  
戰之時源氏十六騎之内也号是部六弥太  
武畧達者也

源頼朝云曰うゆめと一寸志ありと一寸言あり  
乃るも又一寸なり是を志するもの乾坤より自ら  
をゆりたり可なり事みかく一寸なり事を  
なす

又大義をおもひんをのハ可なりを捨て此一事を  
おもはる可なり可なりを捨つゆめ中よりさるるもの  
死がなりひんさるなり此二乃中よりさるる  
人こゝみなり此をえがきは能くえん志のハ  
一乃大義を能おしなり能く大義を捨てん  
則夕介乃おもひくはしみをたごさるものあり  
人けり可なり此境をさるる事ありぬりのハ  
やうに用あり

源義朝三男鎌倉右大将正二位權中納言  
轉大納言母熱田大宮の藤原季範女建  
久十年正月十一日依病出家同十三日薨五  
十二歳







秀ハ九代録田權守通清男也号録田右兵衛尉平治二年正月三於尾張國守津義為長田忠致王君義朝一所被討了忠致誓也

源義經曰陳城をたはしの若乃... 是若論自性乃理... 乃乃神我のまゝを... 乃乃法一討乃... 乃乃心... 乃乃... 乃乃...

乃乃我の... 源義朝九男号九郎太史判官武畧長... 若將也昇殿伊予守左衛門大尉從五位下文... 治五年壬申四月廿九日於奥羽衣川館有害... 三十一歳... 友實基曰... 下二人... 下二人...



藤原秀十代後藤左為少尉實遠男也

号右兵衛尉平治合戦十六騎之内

源一萬九建仁二年九月言が兼四郎時政治

せしめて時ら乃大御を居向く是政の

此時一万余方北企判友が一家百余人一万余と

大御中へ指落奴小一万余女よなわらひ

一が百余人乃其のけの先らとのむさより

せららるる太刀を杖よりさやせりいん海

きてもかむやと事ある此企が一家八人此

るとお知かりをよくお記して名氏のと終

いさきしりやうもいさきしりやういさきしりやう

いさきしりやういさきしりやういさきしりやう

いさきしりやういさきしりやういさきしりやう

いさきしりやういさきしりやういさきしりやう

いさきしりやういさきしりやういさきしりやう

いさきしりやういさきしりやういさきしりやう

いさきしりやういさきしりやういさきしりやう

いさきしりやういさきしりやういさきしりやう

いさきしりやういさきしりやういさきしりやう

いさきしりやういさきしりやういさきしりやう



三郎盛徳曰頼家公君達卯之内有聲  
源定綱曰日本三乃位此治をうわい  
源頼朝公史一然。ソウヤウ我と同治  
保あえていそく又内を人乃公報して  
むがぬい徳をそと治る一東國を人乃心勇  
中ておろりあふぬ。是又強勇をそと治  
て治平一西國を人乃心あふぬ乃あひ威  
勢を甚して治平一也ソウ

佐、貴源三秀義入道又山長男也字多源  
氏從五位下左衛門尉法若秀山号大泉寺

母六条判官為義女也武畧達者也元久二  
年四月九日卒六十四歳

藤憲清曰。そのふ乃乃ハ吾あけてものふ  
なり。和方乃乃ハ我がくて和方よなり。乃  
乃我乃乃ささくハ家氏くぞを我乃乃の  
人とはさるるも。和ハれハい柳をみどり  
あうおりる乃乃云れくも

秀の八代佐茂元東門尉康清二男後多初  
院下小面右兵衛尉從五位下奇人也直事  
教心号園位房後改大室房西行母大盛



物源清経、女也。

藤秀能曰。吾室乃此。一を隔る。おのゝを  
あつとのハ。花をさく。あつと。は。あつと。と。  
あつと。と。能。治。く。人。を。安。ん。今。世。も。も。か。ん。こ。こ。  
世。も。の。な。り。和。奇。屋。ハ。人。を。和。ん。て。可。物。う。  
あ。し。か。ら。る。あ。り。は。此。乃。人。の。和。方。と。よ。く。  
す。り。や。り。ハ。公。孫。一。入。あ。く。後。ら。あ。く。い。か。あ。  
す。

後鳥羽院、北面従五位上河内守秀心、十六代大和守秀宗、男也。仁治元年五月廿一日卒。

五十七法名如願、以和奇之徳、余續人也。

源行國曰。人乃むが事。之に先。乃理。なり。さ。し。  
あ。く。心。と。事。公。あ。ん。人。を。安。ん。こ。こ。も。か。ら。  
院。乃。理。乃。義。あ。ら。バ。あ。ん。ぞ。と。事。乃。あ。ん。や。  
は。乃。世。少。智。る。あ。り。人。乃。く。と。事。乃。ん。と。  
あ。く。て。言。事。乃。ま。げ。こ。人。ハ。武。り。ハ。あ。り。さ。し。  
あ。く。ハ。義。ハ。義。ゆ。ん。人。ハ。い。く。あ。り。や。ん。と。事。

源頼光、五代多田下野守明國、男也。從四位下、  
依渡守母掃部助高行、女仁平三年九月廿六日卒、七十二歳。







源光信舎弟從五位下左衛門大尉景敏女  
子とてはるる人をもとむる乃云は

源光信舎弟從五位下左衛門大尉景敏女

神祇大副輔清女平治乱同信頼

源昌義曰人をあまにさして他人のあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

新羅三郎義光男丸末門少尉義業長

子也依竹元祖号信乃守住常陸國母

常陸住人清輔女強弓馬達者

源遠光曰貴をゆふのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

源頼義四代遠見源太清光男也号加々

美二郎小笠原祖文治元年八月十四日源

氏六人受領之内

源惟義曰大将とらんあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまの



源頼義

源頼義三世大内四郎従五位下義信男也院昇殿正四下修理權大夫号大内

冠者文治元八月十四源氏六人受領之内

源し若丸保元乱よ舎兄頼賢頼仲若宗為成

四人さうして後ろさうて宣方成あつし

若丸以下四人乃子也也。義躬よさるべし

よちあまを舟長山乃水北極とけ

さう乃時し若丸十四文。忠若丸十一文。若

丸九文。天王丸七文。つらるが。忠若丸

向く義物山味方にまうり忠節かさう

くならうハハ後乃忠節よあをす

て助勢らんをいああから下。此四人を助おこ

そりつ。而ホ子孫りをゆさる下。此

げ一交中はるりみく乃後水もくし

ト時兄乃し若丸乃是をまてさう

中まうる。勅余なまてて父為義

申付々切不ゆのあ人う何とていひ

あ切少乃おしゆもと後乃忠節よ

ハ助下父を兄あをみさう



とすうしとさいつい世あや。そとと六余い  
ふてあつとてと。後乃ちあつた人なとて  
源氏乃ちうらあつた念仏中人世おと  
ととて先おととをさる今おと  
久あはがとて。あつたをさる今おと  
やとて。まこと細サ乃ちおととをさる今おと  
がさいつい。おととをさる今おと  
とあつた。父乃ち名をとて。源氏一  
あつた。人一代若くは代かたて。ま  
おととをさる今おととをさる今おと

さいご乃神なり。古今を名くた。とてい。乃あ  
つとまよとて。

六条判友為義十九番目也。し若九惡靈現  
神今有洛西。号曰靈明神。一社之内。四人之灵  
有之。應仁乱之時。宮殿焼上。

源実朝云。曰。人あつた。とてい。若くは人あつた。たいてい  
あつた。人あつた。とてい。良乃ち治る。とてい。世  
と。あつた。とてい。あつた。乃ち治る。とてい。世  
あつた。唯人あつた。とてい。あつた。のあつた。







遠江國池田宿遊女文治二年於伊豆小茶依

舎兄源二位年中被討

阿野法橋全成曰天地神を祈承んぬりて

孝成はくさんりてあつて則二親父地及神外文

内宮乃らわしりかなやつらふ事をおしむる

うらまを月日おろくあふん人をもおしむる

海がたふくくし末世をも世におしむる

ん人あふんきり

左馬頭義朝七男重若今若九号忍禪師

勇力人住醍醐改隆延母九条院難仕常槃

建保年中右京大進平義時仰付金久保

右惠門兼誅之子孫相續阿野号受智

平時政曰大お勇なまハ衣皆勇を海女元士た

らんものハあやへんおとらへる部は信若の

ををみくくや先陰を遂るるは志成天地

よしやとを志くかきひ取乃仏神に去命を

おし小おへりやのゆかま一合成る傷り失

おりルやおまふん罪障り早くかうびくたり

あり西朝成敗執り行若乃公ほよるれお護

神とちうく成りあふ士あつりひ公神よいのら











紀奉光曰賢人を乱る乃ちまうとにわかれ終つて  
よく好む勇者ハ乱國に出く子孫は若くは世に  
ふまゝに雪成衣して春乃ちまうとにわかれ  
治まうと色歌よとれ春く縁世乃ち邪心成  
翻へみまうとの中ふまゝに賢者まうと國  
志げりぬ時乃ち大物ハ此れをわひひく世乃ち  
此れまうとの外ハ賢者成来てまうとまうと  
つまじき事ありてく終つて半半な事治  
世乃ち人を大まうとにわかれ乃ちまうと物  
智乃ちわかれかをくくくみぬ世の流りま

うひ。みぬ在乃ちまうとにわかれ人ハまうと  
りハがまうとのなり功をて通あうもの子  
孫を来て用ひくみまうと。大まうとにわかれ  
乃ちわかれ。人ハまうとにわかれ。智文能仁勇乃ち  
まうのなり。是れまうとにわかれ。賢人なり。い  
のせりまうとにわかれ。まうとのまうと

孝元天皇廿八世後多羽院瀧口奉政男  
也從五位下隆摩守号池田治承五年三月  
為頼朝口於池田城平家合戦一門悉討  
死



源信綱曰。武乃司。多々んものハ。民乃收。氏共  
多々。民此。粘を。謀と。民乃。おの。ひを。心  
う。改る。乃。さ。り。る。な。し。ん。小。細。乃。事。を。ハ。天  
く。空。え。ぬ。ぞ。の。一。款。回。乃。最。士。を。ま。ひ。く。を  
傳。よ。志。く。は。あ。一。民。く。る。一。人。賢。臣。か。り。又。五。ハ  
題。を。さ。る。る。に。物。あ。一。事。と。く。ハ。事。あ。く。て。突。と  
ま。く。は。ぐ。こ。わ。り。

宇多天皇十代從五位下左馬大尉源定  
綱四男從五位上近江守朝雅一類係誅伐  
之功承久一幸賜永補任子孫永從五上左

兼門佐院昇殿仁治二年六月遁世云々

高階惟長曰。款。氏。は。ら。り。り。て。後。よ。皮。意。提。を  
と。了。極。人。を。必。良。物。乃。五。事。な。り。六。事。ハ。枝。葉  
を。款。終。寸。替。人。よ。運。あ。一。は。境。と。志。多。氏。各。物  
に。は。云。ぬ。一。お。ろ。く。あ。一。ハ。事。り。難。事。也。なり

天武天皇十七代高階新五郎惟範男也  
從六位上刑部丞右大將家御仁入奥別  
忌部領之子孫多

故忠衡曰。持。や。り。て。忠。節。を。父。一。慈。悲。氏。母  
と。不。及。を。他。人。也。一。民。を。子。と。一。此。四。漢。を



行ふを止む。曰。天地乃曰。季子て。とく  
くをく。ひ

友、秀、口、九、代、鎮、主、府、將、軍、從、五、位、下、奧、別、大、  
守、秀、衡、三、男、也。号、泉、三、郎、為、義、士、舍、兄、

泰衡誅之

友、光、秀、曰。お、あ、ら、ん、も、の、あ、や、ま、り、て、其、を、害、  
して、後、よ、其、の、罪、乃、は、ま、じ、ら、く、お、く、と、る、事、  
を、悔、く、可、乃、終、ひ、よ、を、改、入、く、改、る、可、き、ハ、  
良、お、な、り、也。世、の、お、ハ、人、は、は、り、て、後、世、人、の、  
我、一、に、改、め、て、悔、り、ハ、あ、く、と、り、て、其、の、道、

と、此、が、さ、り、く、か、お、が、お、い、よ、く、悔、乃、ハ、  
と、也、り

秀、卿、十、代、從、五、位、下、伊、賀、守、朝、光、男、也、承、

久、三、年、五、月、十、五、日、自、後、鳥、羽、院、雖、已、不、意、

勅、派、依、之、遺、友、軍、被、追、討、号、伊、賀、判、友、

京都、守護也

友、朝、政、曰。款、凍、よ、ま、り、て、能、戦、ふ、あ、ら、士、を、ハ、款、お、  
ら、ひ、て、後、束、生、一、て、責、を、一、古、今、良、お、の、お、ひ、  
お、り、て、暗、お、の、せ、さ、か、処、な、り、お、圍、お、ハ、方、を、  
永、失、和、成、子、孫、ハ、乃、と、き、り







宇多天皇九代佐貴源三秀義三男  
加地三郎秀經從五位下左兵衛尉  
八ヶ國主家紋三目結法名西念西國東  
國中有軍功武畧達者

平泰時曰。象たに人乃多。斯曲なり。こゝろを  
おもひぬ。今々新成。然ハ廉臣の  
中は論あり。一帯は定て邪なる。至而  
友方。能女を括て。多々。邪乃人。よおわへ。  
忽罪よ。ゆふ。邪なる人。一人。國よ。あま。  
百人乃。禮となり。天下乃。歌。何。ゆ。是。下り

あくん。屋。心。く。新。成。分。ら。多。う。よ。追。白。ま。こ  
一。也。邪。が。分。新。ハ。あ。り。け。り。心。な。り。  
又泰時乃。父。義。時。新。成。死。な。り。け。り。時。泰  
時乃。い。ま。父。は。の。に。亦。も。成。あ。か。ら。り。  
也。一。女。ま。よ。な。り。と。て。亦。領。を。合。亦。ま。さ。  
分。に。多。き。し。三。回。毒。免。乃。亦。此。配。分。け。て。  
天下を。治。免。給。ふ。法。大。君。ら。下。皆。を。の。ま。り。  
ま。ら。て。亦。民。志。の。に。治。ま。り。け。り。心。な。り。  
又曰。う。ら。い。小。破。乃。時。亦。も。成。く。久。お。り。  
是。人。亦。乃。意。勢。な。り。大。破。も。及。也。



又いふを世乃中は及理海とありらるるさめ  
 あり。そくひありしやうありなりし  
 又いふまじし時ハ物乃皆悉之くま  
 まく可及そくしんれはも富貴にありて  
 おごりて智恵乃うんえ失く人乃極ひさ  
 とやうなかりぬ。そくはは是をささるる  
 ちをひして人乃富貴はは乃道ははは  
 かくははひしははをちかりはは世いんれはと

是ゆら

泰時朝臣在京乃時明直上人にあひ終ひて  
 いうふして天下の民をわくせん。上人の  
 曰。良醫よく脚ははて。我の病乃根元を  
 て。薬はあはく。灸をくはは病をのつ  
 いはるやうよ。吾乃病はは源をわくおさ  
 終ふなり。此世乃根元ハ唯欲はは中はは欲  
 多して一切可般乃猶やうなり。泰時曰。此  
 病は是をわくははく。徳人を欲すは  
 らんき。非ははかりなり。上人乃いふく



大守入善欲よりん事をせりい治はそ  
まの如く百人自法は欲公うはく改ん  
人乃欲心あり新再くい。望まざる欲乃そ  
ふいなるぬぬく。親代をもち志を結ぶ  
乃身可くして。多乃まのりさかろこ  
中

兼久三六十四上洛六波羅北方始自應三六  
七下向元仁二十七補執事守人武藏守元  
京權大吏正四下仁治三五九出家觀阿同  
年六十五日卒六十

教知家。在道倉一て番あり。是に道倉在  
此と洛あり。まのまけるに世中作也。あ  
万民くや一人。あわ乃淨定あるに法大  
見まらく。なり妙よ。統後入及知家  
あは卿子や中。歎あり。歎乃中のまなり。こ  
夢をまよ。まらく。乃歎みか恐る。まハ  
ふ知事。まらく。の歎きを痛く恐る。  
君と下。成多く。む公ま。あま。可民の痛  
は何ぞ。上洛あり。まら。とら。付て。屋まらこ

粟田園白乃兼云四代八田權頭宗綱二男号







位下佐上野國出家法名上西

源義國曰。主母をくんの。此のい小菅乃。あはく  
見とまは。大ぬ乃。火さくして。國家。あていして。子孫。あ  
久が。ありの。なり

新田義國源新田太郎義節二男号山若太

郎承明門院截人兼久有功十時廿四歳

源新田。他人乃。その。道は。あ。く。ハ。さ。は。は。是  
その。道が。罪。なり。他乃。科。あ。は。は。あ。は。ハ  
く。道。なり。何。り。と。あ。は。は。お。と。ひ。と。く。す。り  
あ。や。ま。ら。ハ。あ。り。の。なり

山蔭中納言十二代秋田城今景盛男也從五

位上城今母武藏守頼仁女建長五年六月

三月卒四十四歳

源義氏曰。武將。あ。ら。ん。との。ハ。人。を。不。知。して。是  
あ。く。く。と。人。氏。あ。は。潤。中。の。あ。二。乃。不。なり  
潤。く。あ。と。一。あ。は。う。く。く。く。く。又。あ。く。く。ら  
と。い。冷。あ。言。約。二。合。不。合。氏。り。と。あ。は。下

清和十代足利左馬頭義兼男正五位下母

平時政女仁治二年四月十二出家法名正義

建長六年十一月廿日卒六十六歳







